

(国語科)

言語活動の充実を図り、表現する力を育てる授業の創造

—国語科の学習指導を通して—

大阪市立瓜破小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標に「自ら学び、互いに認め合い、支え合う、心豊かなたくましい子どもを育てる」を設定し、自ら学び考える力をもつ子ども・互いに認め合い協力する子ども・感性豊かな心をもつ子どもを「めざす子どもの姿」として教育活動を進めている。

本校の児童の課題となるところは、基礎学力の向上や自己肯定感の確立である。真面目で一生懸命取り組むが、自信が持てなくて積極的に発言することが苦手な児童が多い。また、生活環境に問題を抱えている児童も見られ、落ち着いた学習環境が持てないためもあり、基礎学力がなかなか積み上がっていかない。そこで、平成 26 年度から「言語活動の充実を図り、表現する力を育てる授業の創造」—国語科の学習指導を通して—という研究テーマを設定し、国語科の研究に取り組み、言語活動を通してこれらの課題に向き合い向上させようと考えた。本年度も同研究主題で、「書くこと」の領域を中心に研究を進め、児童の学力向上と教師の指導力の向上をめざしてきた。

2. 研究の趣旨

本校では、平成 26 年度から国語科の研究を始め、1 年目は「読むこと」の領域を中心に自分の思いや考えを表現する力を、2 年目は「話す・聞く」の領域を中心に、話し合い活動を工夫する力を育成した。自分の思いや考えを状況や話の流れで自由に表現することに課題が見られたため、3 年目は「伝え合う力」を中心に言語活動の充実を図る取り組みを行った。児童が意見を述べる意欲につながる授業改善を考え、伝え合い活動を楽しむことができたことは研究の成果であると考えられる。しかし、自分の意見を、要点をまとめて主体的に話すこと、他者の話をしっかり聞き、自分の意見と比較して考えを深めることに課題が見られた。

そこで、国語科の 3 領域のうち、A「話すこと・聞くこと」B「読むこと」の実践を終え、4 年目にあたる本年度は C「書く」領域の研究に取り組んだ。「書く力」を中心に言語力の充実を図り、主体的に伝え合う子どもを育成したいと考えた。文章を「書く」ことで材料や内容に対して相手意識や目的意識をもたせ、自分の考えを整理し伝える支援となると考えられる。これまで培った国語力を活用し、すべての言語能力を総合的に使う言語運用能力を育てたいと考え、本主題を継続して設定した。

昨年度までの研究を踏まえ、今年度は「自分の考えを明確にした文章を書く力」に焦点を当て指導・支援の在り方について研究を行うことにした。とりわけ低・中学年では、創作（物語）を取り上げ、文章の構成から記述へ展開する過程で予想されるつまづきを明らかにしながら、書くための手だてを探っていきたいと考えた。高学年では資料から情報を読み取り情報を整理する活動や、読解の視点から自分の考えを書く活動を取り上げ、研究を行った。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 自己表現力を高める活動の工夫

- 国語科における単元開発や授業改善に取り組み、ユニバーサルデザインを取り入れたわかる授業づくりを行う。授業改善には、視覚化、焦点化、共有化などの視点を取り入れる工夫をする。

- 各教室の黒板上部にプロジェクターを設置し、ICT 環境を整え、研究教科を中心に積極的に ICT を活用する。
- 公開授業は全教職員が参観できるように設定し、授業実践後の討議会ではワークショップ型と全体討議型の 2 種を組み合わせ、児童の主体的な学びづくりに向けて、話し合い活動を活性化させる。また毎回、成果と課題、改善策などをポスターにまとめ、次の授業研究時に活かせるようにする。
- 「書くこと」における言語活動の系統化を図り、低・中・高学年ごとに学びをスモールステップ化する。また、ルール化や法則化が難しい個に対応した支援について、付けた力の段階ごとに支援の工夫をする。

視点② 自己表現力を高める環境づくり

- 本校独自に朝読書の時間を設定し、年間を通して全校児童で基礎学力の向上を図る。
- 書くことの日常化を図り、自分の考えを他者にわかりやすく書くことができるように、日記や視写指導を全校で実施する。
- 基本話型やハンドサイン、声の大きさの設定、話し方や聞き方の約束の掲示物など表現力を支える基本的な事項を可視化し、ユニバーサルデザインによる教室環境を整える。
- 図書室の整備や図書の充実を図り、読書活動を推進する。地域の読書ボランティアの方々の教育活動への支援を受けて朝読書や読み聞かせなどを実施し、児童の語彙力を高める。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 単元開発を行い、単元のゴールに伝え合う活動を設定したことにより、ただ楽しく書くというだけでなく、読み手を意識した表現力が高まった。書いたものを読み合ったり、伝え合うことで、他者と自分との違いに気づき共感したり賞賛したりすることができた。
- 物語の創作や情報整理・資料活用という分野を中心に、「書く力」を育てる授業づくりを考えていったことで、物事を関連づけたり、文章を筋道たてて構成したりする“思考を整理する力”を育てることができた。ワークシートを工夫し、思考ツールを使って物語の構成を考えさせたことで順序に気をつけて書いたり、つながりを意識して書いたりするようになった。
- 物語の創作活動を取り上げたことで、子ども達を「書きたい」という気持ちにさせ、多様な場面や多様な発想・表現がうまれた。
- ICT を活用して、視覚的に分かりやすい学習の支援ができたことにより、学習意欲を高めることができた。また、単元を通した学習計画や話型、ハンドサインなど視覚支援になるものを掲示することで学習の見通しがもて、思いを表現する支援に繋がった。
- 全校で視写や日記に取り組み出来事や思いを表現する機会を増やしたことで「書くこと」に対する抵抗が減った。
- 読書環境を整備したことにより、進んで読書活動をする子どもが増えた。

(2) 今後の課題

- 「書く」活動を円滑にするため、「言葉をたがやす」活動を継続して行い語彙力を高める。
- 構成メモをうまく活用し、論理的な文章を書くことができるように育てたい。
- 評価の観点を明確に表し、児童が自己達成度を味わえるような活動を充実させる。
- 伝え合う活動においては児童が互いに評価し合い、賞賛し合える観点を設定するように見直していく。